

「おはようございます」 今朝も、井波中生の元気な声が、前庭に小気味よく響きました。全校生徒200名による、一日の晴れやかなスタートです。

先日、学校だより「百合樹（ユリノキ）」122号を発行しました。ユリノキは、葉の形から「半纏木」（ハンテンボク）、花の形から「チューリップの樹」とも言われ、昭和27年頃に植樹されたとのこと。題字に興味を惹かれた私は、創刊号を読んで見ることにしました。そこには創刊（平成13年6月）によせる思いや、教育界の動きに対する本校の構え等が載せてあり、とても読み応えがありました。感慨にふける自分でしたが、ふと、創刊号とともに閉じられている2枚の便せんが目に入り、拝読させていただくと、見事なペン字で一町民の声が、次のように書き綴られていました。

「百合樹」の学校だよりの発刊おめでとうございます。中学一年生が笑顔で手から手へ届けてくれました。（中略） 今回の百合樹に、学校、保護者、地域が一体となって、次世代を担う子ども達を育てていこうとの意図での発刊、とてもうれしいです。今度、配達してくれた子どもと、これから中学校のこと、地域のことについて話し合える機会があることも楽しみです。

手紙を一読し、学校への大きな期待に胸が熱くなり、身の引き締まる思いがするとともに、地域にとって誇りとなる学校にしたいとの「やる気」も一層沸いて来ました。5月1日より新時代「令和」が始まりました。これまで積み重ねられて来た実践や伝統を大切にしながら、「なくしてはいけないものは何か」

「改善すべき点は何なのか」を適切に見極めることが重要であると考えます。大きな窓から太陽の光がたっぷりと入る明るい教室、井波の香りが存分に感じられる木の温もりなど、魅力ある校舎の改修工事もうすぐ終わりを迎えます。「ユリノキ」創刊号当時の方々の願いに思いをさせ、「あせらず、ひるまず、歩みを止めず」の気持ちで、学校運営にあたりたいと思います。



【新芽が出たユリノキと校舎正面】